

平成30年度 全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

本市の全国学力・学習状況調査での教科ごとの平均正答率をみますと、小学校・中学校ともに全教科で全国平均を下回りました。小学校では昨年度よりも国語A B・算数A Bで全国との差を縮め、理科においても前回実施した27年度より差を縮めました。中学校では理科で全国との差を縮めましたが、国語A B・数学A Bで全国との差が広がりました。

学校毎にみますと、前年度より全国平均との差を縮めた学校や各教科・領域で大きく伸びた学校もありましたが、5調査科目の平均で全国を上回る学校数は昨年度より小中学校とも減り、小学校では13校中5校、中学校で8校中2校でした。

石狩市教育委員会は、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあることから、学校、家庭、地域の連携した取組により、子どもたちの力をより一層発揮させる必要があると受け止めています。

本調査は、「国語、算数・数学、理科」の学力面だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、自己有用感や規範意識、将来への夢、就寝・起床時刻など多くの項目で全国と同様・ほぼ同様の傾向にあることがわかりました。一方、家庭での学習時間や読書時間、放課後・週末のゲームやインターネットなど家庭での過ごし方に課題が見られます。また、授業に関する意識は全国とほぼ同様の傾向にありますが、授業内容の理解や話し合いを通じて自分の考えを深めることなどに課題がありました。

学校質問紙からは、家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習の課題を与える」「保護者への啓発」「教職員間の共通理解」などに改善が見られ、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を上回りました。また、学校力向上のため、地域人材活用や保護者の学校支援活動、小中学校間の連携が着実に進展していることがわかりました。

本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「C R T学力検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も合わせて分析し、自校の日常の授業改善を図っています。

石狩市教育委員会は、今回の結果で明らかになった実態や取組の成果と課題を踏まえ、今後の学力向上への対策を各校と連携し進めてまいります。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年，中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。
「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

5. 調査実施日

平成30年 4月17日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校：市内全小学校13校で実施 527名

中学校：市内全中学校 8校で実施 531名